

ふれあい 広場



金剛定寺にあるこの塔は、江戸時代（一七三六年）に宇都宮の藤原元蕃ふじわらのげんぱんによって造られました。その中には、仏教のお経が納められています。高さは約四・七尺、大谷石の台の上に銅製の基壇、基礎、塔身、笠、相輪が積み上げられています。

このような塔は、南北朝から鎌倉時代にかけてさかんに造られましたが、石造りが多く、現存している銅製のものはたいへん珍しいです。

世の中のすべての人が円満になるようにという願いが込められている塔は、礼拝した人は災難から逃れて未来永劫救われるといわれています。



上桑島町
平沢照晋さん

どうぞうほうきょういんとう 銅造宝篋印塔

昭和32年6月3日・市指定文化財

文化財ウオッチング